

兵庫県における第1回国民体育大会（1946年）の開催準備に関する研究

秋元忍¹⁾, 島津大地²⁾

A Study on the Preparations for the First Annual National Athletic Meet of Japan (1946) in Hyogo Prefecture

Shinobu Akimoto¹⁾, Daichi Shimazu²⁾

Abstract

Hyogo Prefecture has hosted the Annual National Athletic Meet of Japan (Kokumin Taiiku Taikai, hereafter, Kokutai) on six occasions. This study examines how the first Kokutai in 1946, which was held on a regional scale, was prepared in Hyogo Prefecture. At a time when the Kokutai has been renamed the Kokumin Sports Taikai and its future role is under discussion, an attempt to understand the circumstances of its first implementation in Hyogo Prefecture offers valuable insights into the evolving relationship between local communities and a nationwide multi-sport event.

While Murai clarified the establishment of the first meet, its preparatory phase has not been fully examined. Drawing on newly available sources at the Prince Chichibu Memorial Sport Library, including records of the Kansai Preparatory Committee and the Hyogo Prefectural Preparatory Committee, this study reconstructs the preparations from three perspectives: (1) the background to Hyogo's selection as a host site, (2) the inauguration and activities of the Kansai Preparatory Committee, and (3) the responses of the Hyogo Prefectural Preparatory Committee.

The analysis revealed the following points. In July 1946, the Kansai Preparatory Committee was established, with Hiromu Kasuga serving as chairman, Tatsuo Saeki and others as vice-chairmen, and Gohei Tanabe as secretary-general. Comprising organizations such as the Kansai Sport Federation and private railway companies, the committee advanced the preparations for the first Kokutai. Preparatory committees were also established in each prefecture; in Hyogo, sport officials and the local administration collaborated, with transportation entrusted to Keihanshin Express Railway and careful coordination of accommodations and food distribution. While Kiyoshi Yoshida, then Head of Managing Department of the Japan Athletic Association, later praised the first Kokutai as being led by the private sector, administrative support in fact played a substantial role and was indispensable to the success of the event.

キーワード：関西準備委員会，兵庫県地区準備委員会，春日弘，田辺五兵衛，佐伯達夫

Keywords: Kansai Preparatory Committee, Hyogo Prefectural Preparatory Committee, Hiromu Kasuga, Gohei Tanabe, Tatsuo Saeki

1. はじめに

兵庫県は、これまで、夏季・秋季大会（第1回・1946年，第11回・1956年，第39回・1984年（芦屋市のヨットのみ），第61回・2006年）と冬季大会（第12回・1957年，第20回・1965年）を合わせて6回の国民体育大会（以下「国

体」と略す）を開催してきた（日本体育協会・日本オリンピック委員会，2012）。本研究は、このうち、広域開催となった1946年第1回国体が、兵庫県においていかに準備されたのかについて検討しようとするものである。国体から国民スポーツ大会に名称が変更され、今後のあり方が議論されている現在、兵庫県を対象として初開催時の準備状況

1) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
2) 兵庫県スポーツ協会
〒651-0083 神戸市中央区浜辺通5丁目1-14
神戸商工貿易センタービル 5階

1) Graduate School of Human Development and Environment,
Kobe University
3-11, Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe, Hyogo, 657-8501
2) Hyogo Sport Association
5F, Kobe Commerce, Industry and Trade Center Building,
5-1-14 Hamabedori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo, 651-0083

を認識しようとする試みには、地域社会と全国的総合スポーツ競技大会とのこれからの関係を展望する上で意義を見出せる。

『兵庫県百年史』（兵庫県史編集委員会編、1967）、『兵庫県150周年記念兵庫県史』（兵庫県史編纂委員会編、2022、2023）には、兵庫県内で開催されてきた国体に関する記述が含まれている。ただし、戦後復興期を対象年代に含む『兵庫県百年史』は、広域開催であったためか、第1回国体について言及していない。国体史研究においては、第1回国体の創設過程を大日本体育会の戦後再建との関わりから解明した村井（2015）による論文があるものの、兵庫県を含む各地域の開催準備については、第2回国体に関する大久保（2019、2020）による論文に相当するような個別研究は見られない。戦後日本のスポーツの通史研究、問題史研究（内海、1993；関、1997；権、2006）においても、第1回国体の開催準備に対する関心は薄く、これらの解明に不可欠な史料発掘も進展していない。

以上の研究状況を踏まえ、本研究では、大日本体育会議事録、大日本体育会『第一回国民体育大会報告書』などの既知の史料に加え、秩父宮記念スポーツ図書館において近年参照可能となった新史料（関西準備委員会『第一回国民体育大会記録』^{注1)}、兵庫県地区準備委員会『第一回国民体育大会兵庫県報告書』^{注2)}）に基づき、兵庫県における第1回国体の開催準備の経緯について、1)開催地としての兵庫県選定の背景、2)関西準備委員会の発会と活動の展開、3)兵庫県準備委員会の対応、の3点から再構成することを課題とした。

本文中に引用した史料の原文のカタカナはひらがなに、旧字体は新字体に改めた。

2. 開催地としての兵庫県選定の背景

2.1 大日本体育会による国体の創設

本節では、村井（2015）に拠り、大日本体育会による国体の創設過程を概観する。

大日本体育会の理事会において、全国的スポーツ競技大会の開催が提案されたのは、1946年2月のことであった。理事たちはこの提案に賛同し、1946年4月、「戦争により失われたる精神的並物的方面の恢復を目途として体育の振作を図るべく」行われる事業の一つとして「全国的体育祭典の施行」を挙げ、1946年秋に全国大会を開催する計画を示した。

その後、全国13か所で開催されたスポーツ懇談会において、スポーツ関係者の要望を確認し、1946年5月には名称を「国民体育大会」とし、京都地方を中心会場とする大会開催方針を定めた。1946年6月には「第一回国民体育大会

実施計画案」（図1）を作成し、以降この計画に基づき、大会開催の準備を進めた。

占領軍からも開催の承認を得た大日本体育会は、1946年8月、文部省体育局長より、地方長官宛に「第1回国民体育大会に関する件」と「全国的国民体育大会計画案」を送付し、国体開催への協力と援助を要請した。また国体地域予選を開催して全国の地域支部を整備し、社会人を国体に参加させることで社会人スポーツの組織化を促し、未加盟スポーツ統括団体の競技を国体で開催して加盟を促そうとした。国体の創設は、戦後日本の再建へのスポーツ界からの貢献という意図と共に、大日本体育会によるスポーツ界再編構想と関係していた。こうして大日本体育会は、1946年8月の夏季大会、11月の秋季大会、翌年1月の冬季大会からなる第1回国体開催を実現させた。

2.2 関西スポーツ界からの協力の確保

1946年7月1日付の大日本体育会『会報』に掲載された第1回国体計画案では、開催地について以下の通り記載されていた（無記名、1946g）。

夏季大会：近畿地方

秋季大会：京都市を中心会場とし種目により京都府隣接府県内会場を選定す

冬季大会：種目その他詳細に就ては当該所属団体の意向により定む

このように、具体的な会場名は挙げられていなかったが、大日本体育会は、上記の会報作成前の5月30日の常務理事会において「日本選手権水上競技大会は第1回国民体育大会を兼ねて8月10、11日両日近畿に於て行ふ。会場は甲子園プールを予定とし進駐軍関係には体育会より交渉してもらふこと」（無記名、1946a）を決定していた。また、秋季に行われる競技についても、1946年5月29日開催の各団体選出評議員会において、国体における各団体の計画を検討し、6月5日の総務委員会でその大綱を決定、同日の全国体育関係事務官会議において協議することを企図していた（無記名、1946b）。「6月5日関係地方事務官との打合せに依る」結果は、以下の一覧表にまとめられている（表1）。

この表が示す通り、1946年6月5日の段階で、各競技団体が希望する会場は、京都、奈良、滋賀、兵庫、大阪各府県に及んでいた。兵庫県での開催を希望していたのは、重量挙げ、レスリング、拳闘、ラグビー、蹴球、野球、籠球の7競技であり、兵庫県内の競技場については、西宮球場、甲子園球場、西宮市内の体育館が挙げられていた。ただし「籠球、拳闘等設備可能ならば京都にて夜間行い度き

第一回国民体育大会実施計画案											
種別名	参加人員	競技所	希望競技	備考	種別名	参加人員	競技所	希望競技	備考	種別名	参加人員
選手役員計	要時間	希望競技	希望競技	備考	選手役員計	要時間	希望競技	希望競技	備考	選手役員計	要時間
204	25	229	11時間	十一時間	204	25	229	11時間	十一時間	204	25
10	140	50	200	15	20	10	140	50	200	15	20
50	310	270	600	145	170	600	145	170	600	145	170
五時間	十四、五	十二時間	昭和二十五年三月十一日	野長野縣スキー場	約六時間	外	十五時間	屋外一	種習用一	屋外二	本競技用一
屋内一	道技、走、跳、投、球、技、術、格闘技、水泳、スキー、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	屋外一	屋外二	本競技用一	屋外一	屋外二	本競技用一	屋外一	屋外二	本競技用一	屋外一
白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他
白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他	白轉車、自転車、馬術、射撃、柔道、剣道、空手道、相撲、棋類、その他

計	馬術	卓球	庭球	軟式	排球	野球	サッカー	テニス	バレー	水泳	スキー	自転車	馬術	射撃	柔道	剣道	空手道	相撲	棋類	その他
4746	85	144	184	106	264	192	315	44	120	108	40	30	4746	85	144	184	106	264	192	315
876	21	30	40	20	30	68	15	12	20	25	25	10	876	21	30	40	20	30	68	15
5622	106	174	224	126	294	260	330	56	140	133	65	40	5622	106	174	224	126	294	260	330
五時間半	五時間半	七時間半	三日間	四十時間	二十八時間	十八時間	二時間半	二時間半	八時間半	十一時間	三時間	三時間	五時間半	五時間半	七時間半	三日間	四十時間	二十八時間	十八時間	二時間半
屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一	屋外一
個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式	個人トーナメント式
日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会	日本選手権大会

図1 第一回国民体育大会実施計画案 1946年6月
(出典：無記名，1946f)

希望あり」と注記があり、京都への変更の可能性も含まれていたようである。

この構想に基づき、大日本体育会は、第1回国体の準備委員会について、「大阪に於ける関西スポーツ連合を通し春日弘氏を中心として話合いをなし、開催地各府県事務官と共に至急結成準備に取りかかること」（無記名、1946h）を決定した。ここに名前が挙げられた春日弘は、住友財閥系企業の役員を歴任した関西財界人であると共に、戦前期の大日本体育協会、全日本陸上競技連盟、近畿陸上競技連盟の役員を務めるなど、スポーツ界の重鎮でもあった（住友金属工業、1974）。関西スポーツ連合は、関西地方を統括するスポーツ団体を加盟団体とし、加盟団体間の横の融

和連絡を図り、スポーツの健全なる発達に貢献することを目的とする組織であり、設立は1946年6月3日である（無記名、1946d）。春日弘は後に関西スポーツ連合の会長となる。後年、当時の大日本体育会理事長であった清瀬三郎が以下の通り回想しているように、京都とその隣接府県での開催を構想していた大日本体育会にとって、春日弘と関西スポーツ連合は、最も頼りにすべき交渉先であっただろう。「既設の競技場が比較的多い府県を選んで第一回大会場とするより外手段がありません。…春日さんに『引き受けた』と御返事を戴けなければ国体は始まらなかったのです。」（清瀬、1974）

大日本体育会は、1946年6月19日、大阪・中之島公会堂

表1 第一回国民体育大会競技場豫定一覧（六月五日 関係地方事務官トノ打合せニ依ル）

団体名	京都府 (京都市)	奈良県 (橿原)	滋賀県 (大津市)	兵庫県 (西宮市)	大阪府 (大阪市)	備考
體操	○					市内體育館 西京極競技場
相撲		○				橿原道場
登山	○					京都美術館
陸上競技	○					西京極競技場
水泳						近畿關係者ニテ協議 ノ上決定
漕艇			○			瀬田川
帆船			○			琵琶湖
スキー†						
スケート††						
自轉車	○					西京極競技場
重量舉				○		西宮演技場†††
レスリング				○		〃
拳闘				○		〃
ラグビー				○		〃
蹴球				○		〃
ホッケー		○				橿原道場
送球		○				橿原道場
野球				○		甲子園球場（マ司令 部ト交渉ノコト）
軟式野球	○					西京極球場
排球					○	市内體育館
籠球				○	○	市内體育館
庭球					○	中モズ庭球場
軟式庭球		○				橿原道場
卓球					○	市公会堂
馬術	○					京都ニテ物色スルコ ト
ゴルフ						本年ハ見合せ
備考	籠球、拳闘等設備可能ナラバ京都ニテ夜間行イ度キ希望アリ					

†, ††スキー、スケートは空欄。

†††西宮競技場の誤記と考えられるが原文のままとした。

（出典：無記名、1946c）

で、関西関係者との懇談の機会を得た。大日本体育会『会報』に記載された35名の所属、出席者名は以下の通りであった（無記名、1946i）。『会報』から判読が困難な箇所は、無記名（1946q）などの史料を確認し補足した。

出席者 28名
京都市会議長 浦田芳朗
京都市会書記長 岡崎廣之
京都市文教局長 尾形正夫
京都市教育課 松田宗尊
大阪瓦斯運動課長 中島善美
関西ヨット協会長 大國壽吉
大阪中央放送局長 水川清一
橿原道場長 甲佐知貞
京都府教育民生部長 大和田彌一
同学務係 遊津孟
同 坂根茂樹
春日弘
文部省体育課長 北澤清
高石勝男
毎日新聞運動部長 辻修二
田辺五兵衛
西野綱三
朝日新聞大阪本社運動部長 伊藤寛
杉本傳
大阪市長代理 深山杲
大阪野球協会 佐伯達夫
大阪府体育事務官 岩野次郎
杉本貞一
佐伯巖
高崎晋一
神戸第四高女校長 木村伊勢栄
大阪府知事代理学務課長 森河敏夫
石田恒信

大日本体育会側出席者 7名
会長 平沼亮三
理事長 清瀬三郎
常務理事 久富達夫
同 東俊郎
同 田畑政治
総務部長 小川勝次
事業部長 吉田清

関西側の多くの出席者の中でも注目されるのは、春日弘と同様に、関西財界、スポーツ界で著名な存在であった田

辺五兵衛が名を連ねている点である。田辺五兵衛は1941年から田辺五兵衛商店（1943年より田辺製菓に改称）社長（田辺製菓社史編纂委員会、1983）を務める一方、関西蹴球協会の設立に関わり、1945年から日本蹴球協会会長代行、1946年から副会長に就任している（日本サッカー協会、online）。また、大阪野球協会の肩書が付されている佐伯達夫は、1924年に完工した甲子園球場の建設に設計顧問として関与し、1937年に全国中等学校優勝野球大会の大会副会長となり、戦後の1946年2月からは全国中等学校野球連盟副会長の職にあった（佐伯、1980）。大日本体育会による交渉は、春日弘、田辺五兵衛、佐伯達夫らを含む、財界、スポーツ、政治、行政、教育、マスコミ各分野の要職者を前に行われたことがわかる。

関西準備委員会『第一回国民体育大会記録 第三篇 大会後記の部』には、「国民体育大会打合会」として、この会合の記録が残されている。これに拠れば、大日本体育会会長・平沼亮三より「日本再興の効果を挙げる為にやる」「一般に学生間に燃え上るスポーツ熱を見て何とかしてやりたい」と国体開催の趣旨と思われる説明があった後、理事長・清瀬三郎より「東京に準備委員会を作ったが期日を決めただけだ。関西の先達に御依頼したい」と関西地方における準備委員会設置の依頼があった。これを受けて、春日弘は「関西のスポーツ関係として是非やって頂き度い」と回答し、実行には問題ありとして、占領軍の許可を取ること、場合によっては資材の提供を受けること、施設の問題から近畿全域で開催するべきであること、選手役員の宿泊設備、食糧に問題があること、占領軍の参加により国際大会になる心配があること、などの点を挙げ、他の出席者との懇談が続けられた（無記名、1946e）。この時、反対意見も見られたが、関西の全施設を動員すればできる、と春日弘に助言したのは、田辺五兵衛であったとする文献もある（無記名、2006）。

田辺五兵衛の助言の内容は「国民体育大会打合会」に記録されていないが、この懇談の結果は、1946年7月3日開催の大日本体育会第7回理事会において、「全国大会現地準備委員会に関する件」として、清瀬三郎から次の通り説明された。「本件は組織上には本会平沼会長を委員長とするも実際上には春日弘氏を委員長として準備を進めることとし同氏の要望する司令部よりの許可を得次第さらに具体的に進行することとする」（無記名、1946j）。

以上のように、大日本体育会は、春日弘、田辺五兵衛、佐伯達夫らの「関西の先達」に関西準備委員会の設立を依頼し、条件付きながらも了承を得ることにより、国体開催への協力を確保した。京都を中心会場とすることが構想されていたものの、他府県での開催を希望するスポーツ団体が存在したこと、関西全域で開催すべきであると春日弘

が主張したことなどを踏まえ、関西準備委員会は兵庫県内競技場を会場候補として検討し、選定することになる。

3. 関西準備委員会の発会と活動の展開

関西準備委員会が正式に発会したのは、上記の打ち合わせ会から約1か月後の、1946年7月22日のことであった（無記名，1946l）。第1回国体の準備委員会は、東京準備委員会、関西準備委員会、府県準備委員会に区分された。東京準備委員会は、大日本体育会各競技団体全国関係機関及び文部省関係者で構成され、東京において処理が必要な事項を担当し、事務本部を大日本体育会に置いたのに対し、関西準備委員会は、関西スポーツ連合、関係府県体育団体、関係電鉄会社等をもって構成され、大会開催の準備本部事項を担当し、事務本部を関西スポーツ連合に置いた（無記名，1946r）。関西準備委員会各委員会の構成、委員長は下記の通りであった。春日弘は関西準備委員会委員長、佐伯達夫は副委員長、田辺五兵衛は総務委員会委員長に就任した。宿舍委員会以下の委員長は各スポーツ団体から選出されている（無記名，1946s）。

関西準備委員会委員長 春日弘

同副委員長 佐伯達夫

清水善造

佐伯達夫

総務委員会 委員長 田辺五兵衛

宿舍委員会 委員長 城戸尙夫（卓球）

食糧委員会 委員長 馬場太郎（送球）

交通委員会 委員長 正野虎雄（ラグビー）

経理委員会 委員長 長谷川寛治（庭球）

設備委員会 委員長 牧野久光（籠球）

印刷委員会 委員長 坂本邦夫（ホッケー）

宣伝委員会 委員長 四谷龍胤（登山）

発会から8日後の1946年7月30日、関西準備委員会は、各競技の場所、競技方法、参加者数、宿泊人員、所要時間をまとめた第1回国体第2次計画案を決定した（表2）。

6月5日の段階では開催地が空欄となっていた水泳は、兵庫県宝塚と大阪府茨木で開催されることが明記された。こうして、8月9、10、11日、日本選手権水上競技大会を兼ねた大会として、水泳、水球、飛込競技からなる夏季大会が開催され、兵庫県では宝塚プール、大阪府では茨木中学が会場となった。1946年7月3日開催の大日本体育会第七回理事会において、「水泳大会については既に予定の八月十、十一日の期日も切迫せることとて準備を急ぎ取敢本会の責任に於て開催準備費の一部を支出することとする

こと」が決定され、大日本体育会理事、日本水泳連盟役員の中畑政治より「宝塚プールを予定地せるその準備状況につき」説明されている（無記名，1946j）ことから、夏季大会の準備については、関西準備委員会の設立以前に、大日本体育会と日本水泳連盟の主導により進められていたと考えられる。

秋季大会において、選手、役員を合わせた参加者数が最も多いと見込まれていたのは、京都の西京極競技場を会場とする陸上競技（1,100人）であった。一方、兵庫県での開催が予定された競技は、レスリング、卓球、籠球、排球、ラグビー、蹴球、ホッケー、送球、米式蹴球、野球、拳闘の計11に増加していた。表1では他県での開催が予定されていたホッケー、送球、卓球が兵庫県開催に変更された理由は史料からは確認できない。しかし、京阪神急行電鉄が所有するスポーツ施設（西宮球場、西宮競技場、西宮体育館）の集積と、1946年当時に借用可能であったという状況が、多くの競技が兵庫県へ集約された背景にあると考えられる。

第2次計画案決定後も関西スポーツ連合は会議を重ね、関西準備委員会として、競技、宿舍、交通、経理、設備、宣伝の各面において、第1回国体の開催準備を進めていった。無記名（1946n）以降の議事録によれば、1946年8月23日、8月27日、9月6日、9月10日、9月17日、9月23日、10月1日、10月8日、10月11日、10月14日、10月18日、10月22日、10月25日、10月29日に会議が開催されている。特に開催間際となった10月11日以降は火曜、金曜午後4時から準備委員会を開催することが申し合わされ、活発に審議が進められた。これらの多くの会議を経て、開閉会式次第、競技プログラム、入場料、宿舍、食糧確保案等が具体化されていった。

以上の検討を経て、第1回国体のプログラムは完成に至った。最終版（図2）の印刷は、「業者の違約による多大の手違い」（無記名，1946o）と「停電の障害」（無記名，1946p）により、大会開始日の前日、10月31日正午に刷り上がる予定となったことが、国体開催直前の準備委員会において報告されている。

関西準備委員会の活動の展開は、最終的に、大阪、京都、滋賀、奈良、兵庫の2府3県での第1回国体秋季大会開催を導いた。夏季大会、冬季大会を含めると、開催府県別競技数は下記の通りとなった。

兵庫県：12競技 水泳（競泳）、バスケットボール、送球、排球、拳闘、ラグビー、野球、卓球、ホッケー、米式蹴球、レスリング、蹴球

大阪府：6競技 野球、ソフトボール、庭球、体操、登山（講演、写真展覧会）、水泳（飛込）

表2 第一回国民体育大会第二次計畫案（昭和廿一年七月三十日關西準備委員會ニテ決）

種目	場所	競技方法	参加者			宿泊人員	所要時間
			選手	役員	計		
水泳	寶塚、茨木	日本選手権・全日本男子中等・全日本女子中等・實業團府縣對抗・教職員府縣對抗・学童對抗	600	100	700	300	24 8月 9.10.11
ヨット	琵琶湖	全日本學生・東西對抗 兼全日本個人選手権	学生 150 全 日本個人 20 水域對抗 18	22 22 22	172 42 40	190	6 11月 3
漕艇	〃	エート ファー スカール 地域對抗 東北・關東・關西 フィックス 實業・中等・高專對抗	133	20	153	100	12 11月 1.2.3
レスリング	西宮・體育館	東西對抗（各 15 名）	30	10	40	25	3 11月 3
卓球	〃	日本選手権大會	310	40	350	200	14.5 11月 1.2.3
籠球	〃	男子一般 女子一般 男子中等（八地域對抗）	264	30	294	200	29 11月 1.2.3
排球	西宮	男子一般 女子一般 男子中等 女子中等 （全日本選手権）	208	68	276	100	19 11月 1.2.3
ラグビー	西宮競技場	中等學校 實業團 高等専門（東西對抗）	100	10	110	58	4 11月 1
蹴球	〃	中等 一般ノ東西對抗	50	10	60	50	2.5 11月 3
ホッケー	〃	男子一般 女子中等ノ 東西對抗	50	10	60	35	3 11月 2
送球	〃	男子一般 女子一般 學生 男子中等 東西 對抗	120	30	150	20	4.40 11月 1.2.3
米式蹴球	〃	東西對抗	50	10	60	30	2 12月 2
野球 [†]	西宮野球場						
拳闘	〃	級毎ノ八地域對抗	40	25	65	35	11 12月 2
陸上	京都 西京 極競技場	日本選手権大會	1000	100	1100	600	14 11月 2.3
軟式野球	〃	一般十六チーム選抜大 會 東阪学童對抗試合 大学高專 中等 東西 對抗	300	30	330	200	24 11月 1.2.3
軟式庭球	〃	男子一般女子一般男子 中等女子中等壯年 選 手権 大學高專 東西 對抗	224	95	314	291	22 11月 1.2.3
重量舉	京都市丸山 公園音樂堂	全日本選手権	30	20	50	20	5 11月 2.3
馬術	京都市長岡 競馬場	東西對抗及選手権	85	31	106	60	5.5
庭球	大阪 中百 舌庭球場	一般男子・壯年男子・ 一般女子・一般少年・ 男女混合 東西對抗	132	20	152	70	20 11月 1.2.3
體操	大阪 體育 館	第一部全日本體操競技 選手権（男子個人・男 子中等個人）第二部體 操模範□技徒手體操□ 演會 ^{††}	168 600	21	189 600	80	□□ ^{†††} 11月 1.2.3

[†]野球は場所を除き空欄。

^{††}, ^{†††} 印刷不鮮明のため□とした。

（出典：無記名，1946k）

全競技日程一覽表（二）

所 在 府 県	会 場	種 目	日 時		
			十 一 月 二 日 (土)	十 一 月 三 日 (日)	
大 阪 府	浪井寺野球場	野 球	第二日	11.00-15.00	第三日 準・決勝
	浪井寺野球場	ソフト ボール	第二日	9.00-14.50	第三日
	中西宮球場	庭 球	男子一般 少年 女子 一般試合	10.00-15.00	男子混合試合
	YMCA 講堂	體 操	第二日	9.00-17.00	一般選手権大会 一 日
兵 庫 県	大塚朝日新聞 講堂	體 操	第二日	9.00-17.00	各團體一斉登山 山岳登山大会
	朝日 会館	空 道	第二日	9.00-17.00	各團體一斉登山 山岳登山大会
	西宮體育館	道 道	第二日	10.00-18.30	第三日 各決勝
	西宮屋外 コート	排 球	第二日 各三位決定戦・決勝戦	12.30-16.00	第一日 第二日 雨天ノ場合順延
京 都 府	西宮屋外 コート	レス リング	女子一般 少年 女子 一般試合	9.00-11.30	東西対抗
	西宮體育館	テ ン ニス	第二日	15.00-18.00	第三日 決勝 三位四位決定戦
	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	12.00-14.30	東西対抗
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	15.00-17.00	東西対抗
京 都 府	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	11.00-15.00	東西対抗
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	13.00-15.00	東西対抗
	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	13.00-16.00	東西対抗
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	東西対抗
京 都 府	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	8.30-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
京 都 府	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
京 都 府	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	女子一般 少年 女子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日
	西宮野球場	ホッケー	男子一般 少年 男子 一般試合	9.00-17.00	日本選手権大会 第二日

全競技日程一覽表（一）

所 在 府 県	会 場	種 目	日 時		
			十 一 月 二 日 (土)	十 一 月 三 日 (日)	
大 阪 府	浪井寺野球場	野 球	11月1日 10.00	9.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	浪井寺野球場	ソフト ボール	11月1日 10.00	9.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	中西宮球場	庭 球	11月1日 9.30	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	YMCA 講堂	體 操	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
兵 庫 県	大塚朝日新聞 講堂	體 操	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	朝日 会館	空 道	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮體育館	道 道	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮屋外 コート	排 球	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
京 都 府	西宮屋外 コート	レス リング	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮體育館	テ ン ニス	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
京 都 府	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
京 都 府	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日
	西宮野球場	ホッケー	11月1日 13.00	10.00-15.00	中等学校選手権大会 第一日

図2 第一回国民体育大会秋季大会プログラム 1946年10月31日印刷刷上り
(出典：大日本體育會，1946)

京都府：5競技 陸上競技，軟式野球，軟式庭球，重量
拳，馬術
奈良県：2競技 相撲，自転車
滋賀県：2競技 ヨット，漕艇
青森県：1競技 スケート

兵庫県は，第1回国民体育大会の競技を最も多く開催した地域となったことが明らかである。また開会式は各開催地域で開催されたが，西宮球場には大会本部が置かれていたため（無記名，1946t），秋季大会の「本部開会式」が開催された（大日本体育会，1948）。

4. 兵庫県地区準備委員会の対応

1946年8月9，10，11日の3日間，兵庫県宝塚市の宝塚プールで開催された水泳競技の開催地準備状況については，その詳細を認識できる史料を欠いており，不明な点が多い。一方，秋季大会については，兵庫県地区準備委員会『第一回国民体育大会兵庫県報告書』に，開催地準備に関する記録が残されている。

第1回国体秋季大会開催地の直接準備事項を担当する組織として，府県準備委員会が設置された。府県準備委員会の委員は府県委員，その府県において開催する種目の競技団体委員及びその関係者をもって構成することとされた（無記名，1946r）。11競技を開催することになった兵庫県にも準備委員会設置が求められ，その委員の氏名，役職名が関西スポーツ連合に報告されたのは，1946年9月10日であった（無記名，1946m）。委員は下記の通り構成された（無記名，1946u）。兵庫県地区準備委員会による報告書では，幹事については名字のみの記載となっていたため，大日本体育会『第一回国民体育大会報告書』（大日本体育会，1948，p.51）を確認し名前を補足した。

顧問 兵庫県体育・学校体育連盟会長 川崎芳熊
西宮市長 辰馬卯一郎
委員長 兵庫県教育民生部長 工藤太郎
副委員長 兵庫県教育課長 中村宏策
兵庫県社会教育課長 藤原忠一郎
委員 西宮市助役 笠原眞作
県会議員 桑田虎夫
県会議員 友田一郎
兵庫県商工経済会 川邊盛秀
兵庫県商工経済会 福島喜平
兵庫県商工課長 金谷武彦
兵庫県食糧課長 麻生茂
兵庫県体育連盟 石田恒信

兵庫県体育連盟 三島正雄
兵庫県体育連盟 白崎都香佐
兵庫県体育連盟 永谷壽一
幹事 総務 堀公平
財務 山田勝太郎
財務 宮下琢實
情報 新谷壽
情報 山本正之
施設用度 山本正之
施設用度 新谷壽
施設用度 小和三夫
施設用度 三宅酸二
輸送 橋本勇
輸送 宮下琢實
輸送 小和三夫
競技 宮本（注：名前不明，宮下の誤記か）
競技 新谷壽

兵庫県内の準備事項は，体育，スポーツ関係者だけではなく，教育民生部，教育課，社会教育課，商工課，食糧課の行政関係者によっても担われていたことがわかる。

兵庫県地区準備委員会の組織と対応事項は下記の通り規定され，各組織に幹事が割り当てられた（無記名，1946v）。

総務に関する件：

1. 委員の委嘱，2. 文章の受理発信，3. 大会計画書の作製，4. 大会一覧表の作成，5. 選手票，役員章，参加章，賞状の受理交付，6. 参加者の参観に関する件，7. 各係間の連絡，8. 救護，衛生に関する件，9. 表彰並賞状，賞品等の準備，10. 開会式体育行進等に関する件，11. 招待者調及招待状発送，12. 接待，受付，案内

財務に関する件：

1. 収支取扱に関する件，2. 出入商人に関する件，3. その他会計に関する件

情報に関する件：

1. ポスター立看板の作成，2. 印刷物の作成，3. 放送に関する件，4. 通信報導，5. 新聞発表に関する件，6. 写真に関する件，7. 大会記録の蒐集に関する件，8. 報告書の作成

施設に関する件：

1. 会場の借用，2. 会場の設備，3. 会場の装飾施設，4. 拡声器，5. 電話の架設，6. 掲示設備，7. 場内整理，8. 観覧席の設定，9. 宿舍割当，10. 旅館収容人数及料金調査の件

用度に関する件：

1. 競技用具準備、2. 用具の配給

輸送に関する件：

1. 旅客（選手、役員）の運賃割引の件、2. 交通に関する件

競技に関する件（籠球、卓球、レスリング、拳闘、野球、ラグビー、蹴球、ホッケー、送球、米蹴、排球）：

1. 実施要項の作成、2. 競技日割の作成、3. プログラム、4. 大会役員の推薦、5. 器具の準備、6. 大会の実施、7. 記録の蒐集、報告

以上の入念な対応事項分担に基づいて、兵庫県地区準備委員会は、関西スポーツ連合、電鉄会社と協議のうえ、下記の通り、大会運営に関する「細部の準備」を進めた（無記名、1946w）。

輸送：京阪神急行電鉄に一任した。

宿舎：1946年10月7日、21日、28日の計3回、宝塚において、警察、京阪神急行電鉄、旅館関係者らと、宿泊料金、人数、配給物資等について協議した。宿泊者希望者数は最終的に宝塚450名となり「非常に楽に収容出来る事となった。」

配給：野菜280貫（1,050 kg）、鮮魚200貫（750kg）、醤油6斗（90kg）を確保し、牛肉、薪炭については警察が特別に考慮することとなった。

開会式：各競技委員と連絡協議の上、前日の10月31日に細部打ち合わせと準備を行う予定であったが、雨で中止になったため、当日11月1日7時半より準備を開始した。県立工業、神戸一中、灘中の生徒、指導者によるプラスバンドを依頼した。

情報関係：本部を西宮球場に置き各競技場との連絡を密にして競技成績を集め、掲示した。報道関係への連絡のための準備を行った。

第1回国体開催時、大日本体育会の事業部長であった吉田清は、「注目すべきことは、初めて生れたこの画期的全国スポーツ大会が全く民間人の手だけで行われたことである。当時の国情として、お役所はこの種のことに何も手出しすることが出来なかったと言うものの、民間スポーツ人の熱情が積ってこの大会を遂行したということは忘れてはならないことである」（吉田、1956）と後年回顧している。吉田清は第1回国体を民間主導であったと評価したが、兵庫県における開催準備に関する史料には、体育、スポーツ関係者と共に、行政関係者の名前も含まれていた。都道府県単独開催となる第2回国体以降ほどの影響は及ぶことはなかったにせよ、第1回国体においても、民間のスポーツ愛好者の熱意と共に、「細部の準備」に関わる行政の支援もまた、県内開催を確かなものにするためには不可欠で

あったと言えよう。

5. おわりに

第1回国体は、大日本体育会によって京都を中心に開催されることが構想されたが、関西準備委員会と兵庫県地区準備委員会の活動を通して、兵庫県は第1回国体において最多となる計12競技（夏季1、秋季11）の開催を準備し、西宮球場には大会本部が置かれることになった。日本体育協会が監修、編集した国体の編年史では「京都市を中心として」（都道府県体育協会連絡協議会、1978、p.122；日本体育協会編、1998、p.102）第1回国体の秋季大会は各会場で開催されたとされ、この記述を参照したと考えられる研究には、第1回国体を「京都国体」（観行、2002、p.176）と略記する例もみられるが、これらの評価はその実態を踏まえたものとは言い難い。また清瀬三郎は、1946年9月、「従来の明治神宮大会の如く一ヶ所に全国選手を集合せしむることは不可能である」（清瀬、1946）と構想中の国体の会場について述べていたが、戦前期の明治神宮大会とは異なる、複数の地方民間施設の活用と官民連携が企図された第1回国体の開催、さらには、戦後日本のスポーツ復興に兵庫県が果たした役割は、これまで認識されていた以上に大きなものであった可能性がある。兵庫県における第1回国体の開会式と競技開催実態、参加者の多様な経験の再構成を通して、これらの点をさらに検討することを課題としたい。

付記

本論文は、令和7年度兵庫体育・スポーツ科学学会学術研究助成（一般研究）による研究成果の一部です。

注

注1）関西準備委員会『第一回国民体育大会記録』は以下の全四篇で構成されている。第一篇「準備ノ部」、第二篇「大会ノ部」、第三篇「大会後記ノ部」、第四篇「その他」。第一篇「準備ノ部」には、大会実施要綱、大会規定、大会計画、準備委員、経理関係、大会一覧表、設備、宣伝、宿舎、プログラム、打合せ会記録の順に、手書き記録を含む300頁を超える文書がまとめられている。第二篇「大会ノ部」には、文部大臣祝辞代読者一覧表、会長挨拶、大会開催中の事務局居残者と出張場所一覧、大会日別プログラム配付割当一覧の各文書が含まれている。第三篇「大会後記ノ部」は、国体開催後の「後仕抹委員会」の議事録、第四篇「その他」は滋賀県準備委員会記録であり、第四篇は第三篇と共にまとめられている。秩父宮スポーツ図書館にお

ける各篇の請求記号は下記の通り。

C10||Ko48||1946-1（第一篇）、C10||Ko48||1946-2（第二篇）、C10||Ko48||1946-3（第三篇、第四篇）。

注2）兵庫県地区準備委員会『第一回国民体育大会兵庫県報告書』は、同委員会による手書きの報告書である。準備の経緯、担当事項、担当者名、役員名などが6頁にわたり記載されている。秩父宮スポーツ図書館における請求記号は以下の通り。C10||Ko48||1946。

引用文献

大日本體育會（1946）第一回國民體育大会 昭和廿一年十一月一・二・三日 全競技日程一覧表。

大日本體育會（1948）第一回國民體育大会報告書。大日本體育會，p.8。

兵庫県史編集委員会編（1967）兵庫県百年史 第五編 昭和後期。兵庫県。

兵庫県史編纂委員会編（2022, 2023）兵庫県150周年記念 兵庫県史 この50年の歩み。第1編 - 第4編。兵庫県。

観行智信（2002）戦後復興・国民国家の再建と国民体育大会—1950年の愛知国体に関して—。立命館産業社会論集，37（4）：173-194。

清瀬三郎（1946）體育會の使命。新體育，6（8-9）：3。

清瀬三郎（1974）春日さんと国民体育大会。住友金属工業，春日弘氏追懷録。住友金属工業，pp.148-149。

権学俊（2006）国民体育大会の研究—ナショナリズムとスポーツイベント。青木書店。

無記名（1946a）打合せ會記録 常務理事会議事録 五月三十日（木）。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946b）第九回常務理事会議事録。大日本體育會，會報。1946年6月1日，p.2。

無記名（1946c）大會計画 第一回國民體育大会競技場豫定一覧（六月五日 関係地方事務官トノ打合せニ依ル）。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946d）関西スポーツ聯合發會。神港夕刊。1946年6月6日，p.2。

無記名（1946e）國民體育大会打合せ 昭和二十一年六月十九日。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第三篇 大會後記ノ部。

無記名（1946f）第一回國民體育大會実施計畫案。大日本體育會，會報。1946年7月1日，pp.3-4。

無記名（1946g）全國的國民體育大會実施計畫案。大日本體育會，會報。1946年7月1日，p.4。

無記名（1946h）第一回國民體育大會總務委員會。大日本

體育會，會報。1946年7月1日，p.4。

無記名（1946i）關西地方スポーツ懇談會。大日本體育會，會報。1946年7月1日，pp.5-6。

無記名（1946j）大日本體育會 第七回理事会議事録 1946年7月3日。

無記名（1946k）大會計畫 第一回國民體育大會第二次計畫案（昭和廿一年七月三十日關西準備委員會ニテ決）。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946l）大日本體育會 第八回理事会議事録 1946年8月7日。

無記名（1946m）打合せ會記録 関西スポーツ聯合第四回定例理事会議事録 昭和二十一年九月十日。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946n）打合せ會記録 スポーツ聯合第一回理事会議事録 昭和二十三年八月二十三日。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946o）打合せ會記録 第拾壹回理事会會議録 昭和廿壹年拾月貳拾貳日。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946p）打合せ會記録 第拾參回國民體育大会準備委員会會議録 昭和二十一年拾月貳拾九日。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946q）全國的競技團體 關西連絡團體。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946r）大會規定 第一章 總則。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946s）準備委員 本部。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946t）大會規定 第五十五條。関西準備委員会，第一回國民體育大會記録 第一篇 準備ノ部。

無記名（1946u）役員。兵庫縣地区準備委員会，第一回國民體育大會兵庫縣報告書。

無記名（1946v）第一回國民體育大会兵庫地区準備委員会組織と対応事項。兵庫縣地区準備委員会，第一回國民體育大會兵庫縣報告書。

無記名（1946w）兵庫縣地区準備委員会に於て分担せし事項。兵庫縣地区準備委員会，第一回國民體育大會兵庫縣報告書。

無記名（2006）関西サッカーのパイオニアたち 特別編 田辺五兵衛氏（1908-1972）治太はんのサッカー人生。関西サッカーのあゆみ編集委員会，関西サッカーの歩み。関西サッカー協会，p.45。

村井友樹（2015）国民体育大会の創設過程に関する研究—大日本体育会の戦後再建に着目して—。スポーツ史研

究, 28: 21-33.

日本サッカー協会. 日本サッカー殿堂 掲額者 田辺五兵衛. https://www.jfa.jp/about_jfa/hall_of_fame/member/TANABE_Gohe.html (参照日2025年9月10日)

日本体育協会編 (1998) 国民体育大会50年のあゆみ. 日本体育協会.

日本体育協会・日本オリンピック委員会 (2012) 日本体育協会・日本オリンピック委員会100年史. PART 1 日本体育協会・日本オリンピック委員会の100年. 日本体育協会・日本オリンピック委員会, pp.632-641.

大久保英哲 (2019) 第2回国民体育大会（1947年石川国体）に関する研究（1）その構想と準備について. 金沢星稜大学人間科学研究, 13 (1): 45-51.

大久保英哲 (2020) 第2回国民体育大会（1947年石川国体）に関する研究（2）競技施設設備の整備について. 金沢星稜大学人間科学研究, 13 (2): 57-65.

佐伯達夫 (1980) 佐伯達夫自伝. ベースボール・マガジン社, p.259.

関春南 (1997) 戦後日本のスポーツ政策—その構造と展開. 大修館書店.

住友金属工業 (1974) 春日弘氏追懷録. 住友金属工業, pp.483-490 (年表).

田辺製薬社史編纂委員会 (1987) 田辺製薬三百五年史. 田辺製薬, pp.605-607.

都道府県体育協会連絡協議会 (1978) 国民体育大会の歩み. 都道府県体育協会連絡協議会.

内海和雄 (1993) 戦後スポーツ体制の確立. 不昧堂出版.

吉田清 (1956) 国民体育大会の誕生記. 新体育, 29 (11): 127.

(2026年2月28日受付)
(2026年6月7日受理)